

## 1. 挨拶 学校長より

【略】

## 2. 授業者より

- ・子供たちが前向き。調べる段階から興味をもっていた。
- ・思考力や根気強さが育ってきていないので、クリアし中学校に送りたいと思って構成した。
- ・子供が先を見て考えてくれたので、構想がその通りにはいかず、2本だてを1本だてになり長くなってしまった。思考ツールを使うことで、操作に終わらないか心配だったが、ツールを使うことで表現する子どもできるようになり、良いところが見えるようになってきた。

## 3. 研究協議

### <A>

- ・することが明確で、授業がうまく流れていた。
- ・子供が目的をわかった上で、思考ツールを使っていた。
- ・子供の将来を考え使えるようにするのが、ICT 活用。
- ・目的をもって、ツールを選べるようになるといい。(GIGA なのか、ノートなのか等)
- ・指導者が、常に根拠を問うているのがよかった。

### <B>

- ・オンラインが自然にできていた。
- ・多くの子供が、主体的に参加できていた。
- ・指導者が意図をもって、仕組んでいた。
- ・活動を減らして、話し合いの時間を多くとれば、より考えが深まったのではないかな。
- ・事前とちがい、チーフが共有ノートを操作していたことで、操作に夢中になるのではなく、話し合いが活発になっていた。
- ・振り返りの視点が明確でよかった。
- ・今後の子供たちの行動が楽しみ。
- ・交流で、視点を子供たち意見でまとめたり、全体で話し合い練り上げたりしてもよかったのではないかな。

### <C>

- ・思考の流れがスムーズだった。
- ・思考ツールの活用がよかった。
- ・見やすいからこそ、考えの整理に有効。
- ・話し合いの視点が明確に示されていた→指導者の評価のためにも、子供の思考のためにもよかった。
- ・必要に応じて、ICTが使い分けられていた。
- ・今後につながる有効な1時間だった。
- ・チームスの難しさも感じた。

## <D>

- ・思考ツールの使い分けがよかった。
- ・「チーフ」の存在がよかった。
- ・指導者の支持が的確でわかりやすかった。
- ・視点が明確な話し合いができていた。
- ・側面掲示を生かしながら話し合いができていた。
- ・オンラインを通じて欠席者も参加しての学習が、授業の「誰一人取り残さない」にも合っていた。
- ・キーワードがわかりやすかった。
- ・(疑問)「残しが多い」「誰でも注意できる」などの子供の様々な発言にどう返せばよいか難しい。  
←実行が難しいからこそ、やっていこうと思う。子供が今まで調べてきた中での意見なので、そこを追求することはしたくない。(指導者)

## 4. 指導講評【鍵村佳恵 主事】

- ・情報活用能力をはぐくむので、実感させることが大切なので、本日のようにどんどん子供に使わせることが大切。事前にきちんと視点を子供たちが共有できていることが大事。
- ・本質につながる話しができていた。「一人も嫌なおもいをしない」に立ち返っていた。
- ・見通しを持った話しができていた。次につながることを考えたがっていた。
- ・発表型になっていたのも、全体で考える交流型になるとよかったのではないかな。  
「はじめは難しいかもしれないけど」の意見に、他の子供たちが引っかかって意見を交流してほしかった。
- ・これからの取り組みの中で、指導者側でなく、子供の引っかかり「批判力：本当にそれでいいのかな」と、正しい認識を得るためのスキルもつけてほしい。
- ・少しずつ指導者側が下がり、子供が友達の見解に「なんで？」と問える力を養ってほしい。

## 5. 学校長より【略】